

誰もが抱える悩みをパワッと解決！

福田貴一先生の 福が来るアドバイス



早稲田アカデミー
教育事業本部副本部長
福田 貴一

学校教育法に示される重視すべき「学力の三要素」のなかに、「思考力・判断力・表現力等」という項目があります。このなかの「思考力」「表現力」と比較すると、「判断力」については具体的なイメージが湧きにくいかもしれませぬ。「入試問題を解くときに、何をどのよう「判断」するのだろう」と疑問を抱かれる方もいるでしょう。今回は、中学受験で求められる「判断力」について考えます。

中学受験で身につく力——「判断力」を磨く

入試で求められる「判断力」①

——算数の「解き方」を「選択」する

朝食に何を食べるか、今日は何を着ていくか、駅まで歩いていくか、それともバスに乗るか……。あらためて考えてみると、私たちの日常生活は「選択」と「判断」の連続です。ただ、今回は中学受験に向けた学習における「選択」と「判断」する力——「判断力」に的を絞って考えていきたいと思えます。

まずは、算数の問題を解くときの「選択」と「判断」についてです。入試問題レベルになると、算数の問題の解き方は一つは限りません。例えば「速さ」を求める問題であれば、「状況図」を使う方法や「ダイヤグラム」を使う方法、「周期的」に考える方法、「図形」の考え方を応用

する方法など、さまざまな解き方があります。それらのなかから、確実に、かつ効率的に正解にたどり着ける解き方を「選択」し、「判断」することが必要になってくるわけです。

この「判断力」を磨いていくために大切なポイントは二つです。一つは、さまざまな解き方を正しく身につけること。知っている「解き方」の数が多いうことは、その問題をどう解くかを「判断」するための「選択肢」が多い、ということになります。小3から小4の1学期までの学習単元は主にこの「解き方」をメインに扱いますので、正確に理解し、身につけていくことが大切です。もう一つのポイントは、学習する際に「考えて解く」習慣を身につけることです。算数が苦手になっているお子様の場合、この「考え方」のところまで覚えてしまおうとする場合があります。算数という科目を「考えて

去法」があります。「間違っているものを消していき、残った選択肢を選ぶ」という方法です。この消去法を使うときに気をつけなければならないのは、「頭の中にあるイメージだけで考えない」という点です。「たしかこんなことが書いてあった」という印象だけで選ぶのではなく、本文と照らし合わせながら、きちんとした根拠を探して消去する、という習慣をつけておくことが大切です。

また、高学年のテキストや入試問題では、「消去法」だけでは選びきれない選択肢問題が出てきます。選択肢のなかに「明らかに違っている」部分が見つからない、というケースです。私は、「こういった場合には「選択肢同士を」「比較」する」という考え方を教えています。選択肢同士を比較して、どちらがより適切かを考えるのです。選択肢が長い場合は、分解して使われている言葉や表現を比較することで、より適切な選択肢が見えてくるようになります。

合格点をとるための「判断力」

さて、中学入試で合格を手にするためには、テスト内容以外にも「判断力」が必要な場面があります。

中学入試において、「満点」を取らなければ合格できない学校はありません。学校によって異なりますが、合格ラインは55%から70%くらいの場合が多いでしょう。入試会場では「満点を目指す」のではなく、「制限時間内で合格点を取る」という視点を持たなければなりません。こ

こで、「判断する力」が必要になるのです。

入試本番では、「正解までの道筋が見えない問題」に対して、わかるまで時間をかけて考えることはできません。どの問題に時間をかけて考えるかという「選択」と「判断」が求められます。そのときに必要となるのは、「この科目で自分は何点取るべきなのか」「残りの時間に自分は何点くらい時間がかかるか」という、経験に基づく客観的な視点です。これらの視点は、志望校の過去問演習に取り組むなかで身につけていくことができます。合格点を取るための「判断力」を養うことも、過去問演習の大きな目的の一つなのです。



解く」のではなく、「当てはめて解く」というように誤解をしてしまったのです。しかし、入試レベルの問題は、覚えた「解き方」に当てはめるだけでは解けません。日ごろから「どの解き方を使えばよいか、自分で考える」という過程を大切に学習を進めていきましょう。

入試で求められる「判断力」②

——国語の「選択肢問題」の考え方

国語で「判断力」が求められる問題といえば、「選択肢問題」です。「次の選択肢からもっともふさわしいものを選びなさい」というのは国語の典型的な出題パターンで、複数の選択肢から「最適解」を求める、という考え方の基本といえる問題です。

将来に生きる「判断力」

社会に出てから直面する問題には、「正解」が用意されていないことがほとんどです。より正確に言えば、誰も「正解」を教えてくれない問題に対して、自分で考え、解決していくことが求められるのです。中学受験に向けた学習で身につけていく「判断力」は、将来社会に出るときにも必ず役立つものでしょう。問題に対して多くの選択肢を準備するための知識、その選択肢から最適解を見つけ、客観的な視点も持ちながら冷静に判断していく姿勢——。中学受験へ向けた学習は、志望校の入試問題で合格点を取るためだけでなく、将来につながる力を養うことにもつながっているのです。

福田 貴一の 四つ葉cafe 公開中!

中学受験をお考えの小学3・4年生のお子様をお持ちの保護者様のためのブログです。

早稲田アカデミー 教育事業本部 副本部長 福田 貴一

著書に『中学受験 身につくチカラ・問われるチカラ』（新星出版社）。ブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関するさまざまなことについて書いています。

詳細はWebをご確認ください。

早稲田アカデミー 検索

左の二次元コードを 読み込んで ご確認ください

スマートフォンの対応